

「選択と集中」により創出した キャッシュを活用し、 財務基盤の一層の強化を図る

取締役執行役員常務 森田 俊平



Q 2014年3月期は好業績でしたが、 2015年3月期の見通しをどう考えていますか？

2014年3月期は第1四半期を中心とした株式市場の盛り上がりにより、金融サービス事業では特に市況に左右されやすいSBI証券の委託手数料収入などが前期比で減収となる可能性があります。ただし、SBI証券では信用取引残高や投資信託残高などがそれなりに積み上がっており、利益は堅調に推移するものと考えています。

2015年3月期は前年同期と比べ株式市場が軟調に推移しており、金融サービス事業では特に市況に左右されやすいSBI証券の委託手数料収入などが前期比で減収となる可能性があります。ただし、SBI証券では信用取引残高や投資信託残高などがそれなりに積み上がっており、利益は堅調に推移するものと考えています。また、SBIジャパンネクスト証券やSBIマネープラザ、SBI FXトレードは2014年3月期に収益基盤が大幅に拡大した結果、2015年3月期においても十分に収益貢献する事業に成長しています。一方、赤字事業のSBI損保は、収入保険料が順調に積み上がる一方、コンバインド・レシオが100%を下回るなど収益性も改善を続けており、2016年3月期のIFRSベースでの通期黒字化に向けて計画を上回るペースで進捗しています。従って、金融サービス事業は全体的に地力がアップし、本質的な収益獲得力が向上していることから、今後も安定的に収益貢献が期待できるものと考えています。

アセットマネジメント事業では、2015年3月期もIPOが期待される国内外の有望企業が複数社あり、期待が持てます。またIFRSベースで既に収益貢献している韓国のSBI貯蓄銀行は、韓国不動産市況が改善していく中で今後一層の収益力強化にむけた事業展開が図られていく予定です。

バイオ関連事業は、非常にポテンシャルの高い事業ですが、SBIバイオテックのIPO準備に加え、SBIファーマにおけるALA関連事業も着実に前進しており、今後はキャッシュの創出を意識した事業活動へ移行し、徐々に収益貢献が進んでいくものと期待しています。

総括しますと、2015年3月期は2014年3月期のような外部環境の盛り上がりによる一時的要因ではなく、これまで積み上げてきた実

績や着実に打ってきた施策に基づき、安定的な利益を確保できると予想しています。

Q 経理財務担当役員からみた当面の財務的な 課題は何でしょうか？

金融サービス事業は、SBI損保やSBIカード等の赤字企業を黒字化させて、セグメント全体としてより収益性の高い事業ポートフォリオを構築していくことが課題となります。アセットマネジメント事業ではSBI貯蓄銀行を韓国会計基準においても安定的に利益を出せる状態に移行させることが重要です。バイオ関連事業ではSBIファーマにおいてALA関連事業の海外展開を本格化させること等により、早期に収益化を実現し、研究開発費を自社で稼げるようになることがポイントでしょう。

今後は、各事業に対する資金投下から資金回収の段階に移っていきます。各事業で継続的に生み出すキャッシュや「選択と集中」により創出したキャッシュを活用し、有利子負債の圧縮を進め、財務基盤の一層の強化を図っていきます。

Q 株主還元策についての考え方を教えてください。

当社では配当政策の基本方針として、「年間配当金について1株当たり最低配当金額として10円の配当を実施し、持続的な成長のための適正な内部留保の水準、当面の業績見通し等も総合的に勘案し、さらなる利益還元を可能と判断した場合には、その都度引き上げることを目指す」としています。2014年3月期は、好調な業績を踏まえ、1株当たり配当を前期の2倍、1株当たり20円としました。

当社の特徴として長期保有の株主様が多いため、まずは安定的な配当を実現し、その上で業績の良い時にはそれに応じた利益分配を行っていきます。